

保存資料
婦人部

婦人関係資料コーナー
調査資料 No. 17

婦人の社会的関心に関する
世論調査

労働省婦人少年局

は　じ　き

昭和30年の婦人週間は、社会人としての婦人の実力の涵養を目標として行われましたが、その事業の一つとして、婦人は果してどれだけ社会人としての実力をもっているか、婦人の生活に密接な関連をもつ諸問題に対して、婦人はどの程度関心をもっているかなどを把握するため、内閣総理大臣官房審議室に依頼して、総選挙直後の時期をえらんで世論調査を実施しました。

ここにその結果をとりまとめて、この問題に関心を寄せられる方々の参考に供します。

印刷にあたり、審議室の御協力に深く感謝いたします。

1955年11月

労働省婦人少年局

目 次

I 調査の概要	3
(1) 調査目的と項目	3
(2) 調査期日	3
(3) 調査対象	3
(4) 調査方法	3
(5) 回収率	3
II 結果の大要	4
III 結果の細部—質問と調査結果	6
1. 日常生活と社会との関連についての認識	6
2. 婦人の生活に関連ある問題に対する関心と意欲	9
3. 婦人の団体活動に対する態度	18
4. 選挙に対する関心と政治的態度	17
1) 関心とその内容	17
2) 候補者を決定する要素	28
5. 婦人週間に対する関心と希望	30
IV 付 録	34
(1) 質問票及び別紙	34
(2) 対象者構成	38

I 調査の概要

(1) 調査目的と項目

現在の憲法では婦人は男子と全く同等の権利が与えられ、社会的地位も向上したように見られる。しかし現実の生活において、婦人は果して自らその権利を十分行使しているであろうか。又同時に、その権利を行使し得るに足るだけの十分な社会的関心と知識を持ち、男子と同等の活動を行つてゐるであろうか。本調査では以上の諸点を明らかにし、今後の婦人問題解明に対して一つの指針を与えようとするものである。なお直接のねらいは次の諸点である。

- (1) 日常生活と社会との関連についての認識
- (2) 婦人生活に関連ある問題に対する関心と意欲
- (3) 婦人の団体活動に対する態度
- (4) 選挙に対する関心と政治的態度
- (5) 婦人週間に対する関心と希望

(2) 調査期日 昭和30年3月18日(金)～22日(火)

(3) 調査対象 東京都区内20才以上の女子500名。なお標本構成は巻末付録Ⅱを参照。

(4) 調査方法

先ず東京都各区の人口数に比例して100町を各区に割り当てた。ここで各区毎に割当の数だけ町をランダムに抽出したが、その際各町の人口数に考慮を払い、各町にウエイトをつけた。

かくして得られた各町の管轄の区役所又は出張所におもむき、住民登録簿により、標本として得られた各町より予め定められた世帯数4～6をランダムに抽出した。かくて得られた各世帯の20才以上の女子より1名をランダムに抽出し、これを最終単位として面接の上、調査を行つた。なお質問事項は巻末付録(1)の質問書に基き実施した。

(5) 回収率 88%

[注](1) M.A.とある質問は2つ以上の回答を許したものがあり、合計が100%を超える場合のあることを示す。

(2) 数表の()内の数字は実数を示す。

Ⅱ 結果の概要

1. 日常生活と社会との関連についての認識

1) 自分の家が楽しく暮してゆけるためには、家のことだけを一生懸命やるのがよいというものが41%、そういう考え方がゆらいでいるものが49%で、健全な家庭生活のために家庭にだけこもれという考え方と、そうでないものはほぼ半半ばしている。

2) 女の政治的発言に対する心理的障害は薄らいでいるものと見られ、「女が政治のことをいうと嫌われるという気がする」というものが14%で、「そういう気がしない」というものが大部分の75%を占めている。

2. 婦人の生活に関連ある問題に対する関心と意欲

主婦連の値下げ運動については殆んどのもの(88%)が知っており、運動に対しても一般に好意的で、効果があると思うものは83%(全体の73%)、参加したい、あるいは応援したいと支持するものは65%(全体の57%)である。

3. 婦人の団体活動に対する態度

婦人の団体活動に対しても期待は大きく、婦人同士まとまって運動すれば、力を発揮して解決できるとするものは過半数の65%である。

婦人同士の会とはかくうまくゆかぬという世評に対して、それに同調してうまくゆかぬことが多いというものは4割で、その原因としては、家事・育児に忙しいという理由が41%で最も多く、しつと(29%)、自己本位(26%)、あるいは知識の不足(28%)などの自己反省的原因をあげ、自己以外に責任を転嫁して、幹部の指導力の不足(11%)、周囲の理解の不足(14%)にあるとするものは少い。

4. 選挙に対する関心と政治的態度

1) 関心とその内容

(i) 投票率も高く(東京都内区部における婦人の投票率61%)、候補者を誰の意見も聞かず自分できめたものは投票したものの75%(全体の57%)、人の意見もきいたが自分できめたという者は20%である。候補者の出揃った頃(2月初め)には約半数(48%)が候補者をきめており、概して関心も高いように思える。候補者の出揃った頃に候補者をきめたというものには、前回の候補者と同じだという固定票が多い。

(ii) 保守的な政党あるいは革新的な政党という言葉、及び公約のあつたことなど、選挙に必要な予備知識については、大部分が知つてはいるが(政党という言葉を知っているもの72%、公約のあつたことを知っているもの81%)、それを得た経路は新聞(58%)ラジオ(54%)に比べて選挙公報を参考にした者は少く(29%)関心が積極的でなかつたと思われる一面もある。また自分の投票した人が保守革新のいずれの政党に属しているか区別ができなくて投票しているものはほぼ4割に近い(37%全体の28%)。投票に当つて「私達が政府をきめる」と考え、あるいは投票しなかつたにせよ「権利を使えなくて残念である」といった自主的態度のものは全体の50%である。

2) 候補者を決定する要素

(i) 投票にあつては、人物を重視したと思われるものが43%で最も多く、政策を重視したと思われるものは31%でこれにつぐ。人物を重視したと思われるものは保守的政党に投票したものに多く、政策を重視したと思われるものは革新的政党に投票したものに多い。

(ii) 保守的政党に投票したものは約半数(51%)で、革新的政党に投票したものは3割強(33%)である。

公約については、ほぼ7割(69%)が多少はやつてくれると思つてゐるが、27%はあてにならないとしてをり、人物の選定に当つての考え方としては、「よくない評判があつても実行力のあつた人」という考え方が強く、過半数の54%を占める。また婦人のために働くような人を条件とする考え方については、大多数(84%)のものが、考慮に入れないで投票しているようである。

投票結果では、婦人候補者のいた地区の14%が婦人候補者に投票したにとどまる。なお、ほぼ4割(39%)のものは、自分の投票した人は理想的な人であつたと満足している。

5. 婦人週刊に対する関心と希望

婦人週刊については過半数の62%が知つてゐるが、その実施主体がどこであるかについては13%(全体の8%)が正しくあるいは半ば正しく知つてゐるにすぎない。

婦人週刊に対する希望としては、婦人の地位・教養の向上、あるいは生活安定を望むものが多い。

Ⅲ 結果の細部一質問と結果

1. 日常生活と社会との関連についての認識

長い間、「家」は、女子にあつては生活のすべてであつた。婦人が「家」から解放されて参政権が与えられてから10年を経て、婦人はどのように変つたであろうか。

先ず、社会に対する基礎的態度として家庭生活と社会との関連についてどのような見方をしているかを見て行きたい。

質問

あなたは自分の家が楽しく暮してゆけるためには、家のことを一生懸命やる方がよいと思いますか。それとも、それだけでは十分でないと思いますか。

家のことを一生懸命やる	41%	
どちらともいえない	16	43%
それだけでは十分ではない	27	
わからない	16	
計	100%	

質問

〔それだけでは十分ではないというものに〕

それでは、どんなことをしたらよいでしょうか。(M.A.)

内職に励む	15%	
新聞その他で知識をたかめる	14	42%
社会政治方面の知識をもつ	13	
積極的に男と同じように働く	13	
付近の人達と協力したりあるいは		45%
世間が安定するように努力する	21	
P.T.A.の仕事に励む	6	
婦人会の仕事に力を入れる	5	
その他	8	
わからない	8	
計	103%	

「自分の家が楽しく暮してゆけるためには、家のことだけを一生懸命やるのがよい」という伝統的な生活についての考え方をするものは、ほぼ4割で、「それでは十分ではない」というものは27%である。

しかし、それに「どちらともいえない」というもの(16%)を加えれば4割となり、健全な家庭生活のために婦人は家庭にだけこもれというものと、その考えがゆらいでいるものとは、ほぼ相半ばすることとなる。

しかし「十分でない」というものも、「それではどうしたらよいか」という点では積極的に社会に眼を向けて、「男と同じように働く」(13%)とか、あるいは主として「地域及び社会での具体的協力活動を考える」というものは45%であるが、他の42%のものは、「内職に励む」(15%)とか、「社会的知識あるいは関心をたかめる」など、個人的な範囲を出ていない回答をしている。

なお、生活とこの態度との関連を見ると、次の如くなつてゐる。即ち、「家のことを一生懸命やるだけでは十分ではない」と、伝統的な考え方から脱却しているものは、「暮らしがよくなつた」又は「暮らしがよくなる」というものに多く、

「暮らしが悪くなつた」又は「暮らしが悪くなる」というものに少なくなつており、生活の余裕が生ずると共に、視野が社会に拡がつて行くという関連を示している。

現在は、婦人に参政権が与えられてい

るものの、かつては一般的であつた婦人の政治的発言に対する世間の忌避的態度を婦人はどのように見、また自らこれを感じているかをみると、

	一年前と比べて暮らしは				これからは			
	よくなつた	変らない	悪くなつた	不明	よくなる	変らない	悪くなる	不明
一生懸命家のことをやる	42	39	44	43	46	42	45	32
どちらともいえない	17	17	16	7	9	19	13	21
それでは不十分	36	28	24	21	38	24	23	25
不明	5	16	16	29	7	15	19	22
計	100	100	100	100	100	100	100	100

質問

女が政治のことをいうと嫌われるという人がいますが、あなたは世の中にそのように考えている人が多いと思いますか、それほどでもないと思いますか、それとも少ないと思いますか。

多い	15%	
それほどでもない	47	62%
少ない	24	
不明	14	
計	100%	

質問

ところで、あなたは、政治のことをいうと嫌われるという気がしますか、そうは思いませんか。

する	14%	
しない	75	
不明	11	
計	100%	

となり、先ず「女が政治のことをいうと嫌われると思つている人が世の中に多いかどうか」の判断で、「少い」と思つている人は24%であるが、「多い」(15%)「それほどでもない」(47%)と回答が異なるにせよ、そういう人があるのを認めるものは過半数の82%に達する。

世間の人がどのように感じるかはとも角として、自分は「政治のことをいうと嫌われる」と思つているものは14%で、自分は「政治のことをいっても嫌われる気がしない」というものは75%の大多数のものに及び、注目すべき心理的変化であるといえる。これからいえば、政治的発言に対する婦人の側における心理的障害は、かなり薄らいでいるとみてよいであろう。

次に、世間に対する判断と、自分の態度との組合せを見ると、「世間に政治のことをいうと嫌われる」と考えている人が多い」と見るものは、「自分も嫌われるという気がする」と思つているものに多く、逆に「政治のことをいっても嫌われると考える人は世間に少い」と見るものは、「自分も嫌われるという気がしない」と思つているものに多く、世間に対する判断は、自分の態度如何と関連が大きいということが知られる。

なお「自分は政治のことをいっても嫌われるという気がしない」というものでも、その割合が「世間に政治のことをいうと嫌われると考える人がいる」ことを「それほどでもない」にせよ認めるものである。この結果は、婦人の政治的発言に対する心理的障害は薄らいでいるとはいえ、世間においてはそれがまだ一般的には認められていないという現在の過渡的状态を示唆するものであろう。

		女が政治のことを言うと思われると考える人が世の中に			
		多い	それほどでもない	少い	計
自分の気が はそう いう	する	58	25	17	100
	しない	10	59	31	100
	不明	25	60	15	100
計		100	100	100	100

「自分は政治のことをいっても嫌われるという気がしない」というものは、自分の家が楽しく暮らしてゆけるためには「家のことを一生懸命やる方がよい」というものより、「それだけでは十分ではない」というものに多いのであるが、どういう階層のものが「十分ではない」と考えるものであるか階層別傾向を見ると次の如くである。

先ず学歴差による影響が顕著で、学歴の高い層ほど、かかる態度のものが多く、大学高専卒のものは44%に達する。年令別、未婚婚別では、さすがに年令の若い層、未婚のものに多く、結婚がいずれにしても女子にあつては、大きな転機をなしており、それを契機として、この態度は著しく低下し、「生活」あるいは「家」というものの拘束が感じられる。若い世代では伝統的な考え方もゆらぎ、視野を社会へ向けようとしており、今後、婦人のこの態度の増大が期待できるものと考えられよう。なお、生活程度別で中上の階層について、下の階層にかかる態度のものが多くは、「内職に励む」という態度のものがかなり含まれているためでもある。

「家のことを一生懸命やる」というものはその逆の層に多いのだが、中上の階層は「十分ではない」というものも多かった一方、この態度のものも多いのは(46%)、収入が多くなつてはじめて「健全な家庭生活のために婦人は家庭にだけこもれ」という教え方が出て来るためによるのであろう。

	年 令 別				未婚婚別		学 歴 別				生活程度別				
	20代	30代	40代	50代	未婚	既婚	大学 高専	旧中 新高	新中 小卒	以下	上	中上	中	中下	下
一生懸命家のことをやる	34	37	48	50	23	45	32	35	47	(3)	46	39	43	42	
どちらともいえず	19	17	11	15	18	15	20	18	14	(1)	14	17	15	13	
それでは不十分	33	31	29	13	41	25	44	32	21	(4)	34	28	21	30	
不明	14	15	12	22	18	15	4	15	18	(1)	6	16	21	15	
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	(9)	100	100	100	100	

括弧内の数字は実数

これを更に、収入の有無別で見ると、「家のことを一生懸命やるだけでは十分ではない」というものは、本人に収入あるものに多く、収入を得て経済的自立性をもつことが、社会的な意欲を生むのに関連のあることを示している。

自己の職業別では、かかる態度のものは会社員のものに最も多いが(39%)、労務者の意識の低い層及び商工業のものには少く、商工業に従事する婦人の多くは、職業が「家」に含まれているためである。

家庭の職業別では、自由業の家庭のものは全階層を通じて最も多く(54%)、次いで会社員の家庭のものという順になつており、総じて職業的に見ても意識の高い層にかかる態度のものが多く。

	本人の収入の有無別		自己の職業別								家庭の職業別							
	有	無	会社員	商工業	労務者	主婦	学生	自由業	農	無職	会社員	商工業	労務者	農	自由業	無職		
家のことを一生懸命やる	37	44	23	59	40	45	—	(1)	(2)	37	34	45	48	(5)	23	50		
どちらともいえず	16	16	25	9	10	15	(1)	(1)	—	17	17	14	13	(1)	19	25		
それでは不十分	32	24	39	14	23	27	(4)	(3)	—	15	32	21	25	—	54	14		
不明	15	16	13	18	27	13	—	—	—	31	17	20	14	(1)	4	11		
計	100	100	100	100	100	100	(5)	(5)	(2)	100	100	100	100	(7)	100	100		

2. 婦人の生活に関連ある問題に対する関心と意欲

日常生活と社会との関連についての基礎的態度を前項において見たが、それはそれとして、現実の生活に関連ある問題に対してはどの程度関心を払い、意欲をもっているかを、昨年来より本年にわたつて展開された主婦連合会の牛乳及び電気料金の値下げ運動について聞いてみた。

質 問

ところで、東京の主婦ばかりの婦人会で牛乳や電気料金の値下げ運動をやっているのを御存知ですか。

知っている
知らない

88%
12

計 100%

質 問

〔知っているものに〕

その団体の名前を御存知ですか

主婦連合会であることを知っている 31% (全体の27%)

知らない 69 (" 61%)

計 100%

牛乳及び電気料金の値下げ運動については、殆んどすべてのもの(88%)が知っているが、その主体がいかなる婦人団体であるかに注意を払い、主婦連合会であることまで知っているものは、値下げ運動を知っているものの81%(全体の27%)である。

次に、値下げ運動の主体がどこであるかについての関心の大小には関係なく値下げ運動を知っているものに、その運動の実際効果をもとにどのように考えるかをたずねた結果は次の通りである。

質 問

〔牛乳や電気料金の値下げ運動を知っているものに〕

ああいうことをしても結局は、あまり効果がないと思いますか、多少は効果があると思いますか。

非常に効果がある 8% }
多少効果がある 75 } 83% (全体の73%)
あまり効果がない 15
そ の 他 2

計 100%

実際効果について、好意的な見方をするものが多く、「非常に効果がある」と思うものは1割に満たないが、「多少効果がある」と思うもの(75%)を加えれば、効果のあることを認めるものは83%(全体の73%)に及んでいる。

この質問の回答には「わからない」という回答がないため、この種の回答に近いグループが「多少効果がある」に入っていることも考えられるが、この運動に寄せる期待は強いとはいえないまでも、広く日つ一般的であるといつてよいであろう。

更に、この運動に積極的あるいは消極的にせよ、支持を与えるかどうかについては

質 問

〔値下げ運動を知っているものに〕

できれば、そのような運動にあなたは参加したいと思いますか。それとも、それほどのお気持はありませんか。

参加したい 11% }
応援したい 54 } 65% (全体の57%)
そういう気持はない 35

計 100%

となり、できれば参加したいというものは1割であるが、それほど積極的でないにしても、応援したいというものが54%もあり、これを加えれば、結局支持するものは65%(全体の57%)に及ぶ。

効果を認めるものに比べて、比率が約2割近く減少してはいるが、支持するものは広範に及んでいるといつてよいであろう。

この支持層の階層別傾向は次の如くである。

未婚、家事担当の有無、年齢、学歴別では、未婚のもの、したがって家事を担当していないもの、20代のもの、また30代に比べて家庭的な負担が軽くなつて来る40代のもの及び学歴の高い層に多く、大学高専卒のものは、その82%までが援助したいというものであるが、これに反して新制中学、小卒以下のものの44%は援助する気持のないもので、学歴差による対照は顕著である。自己の職業、家庭の職業別では、比較的意識の高い会社員のもの(81%)、自由業の家庭のもの(80%)に多い。

非支持層のうち年齢が50を超えるものは別として、30代の中堅婦人層、家事を担当している主婦などは、いずれも40%を前後しており、又この運動のインテリ婦人層的性格に対して反撥を生みやすい、中以下の生活程度の階層のもの、労務者及びその家庭のものに多いという点は、この運動の問題点を示唆するものであらうと思われる。

	年 令 別				未 婚 別		学 歴 別			生 活 程 度 別				
	20代	30代	40代	50代	未 婚	既 婚	高 大 専 卒	旧 新 中 高 卒	小 新 以 下 卒 中 下	上	中上	中	中下	下
参加したい	14	11	7	11	21	9	28	10	9	(2)	13	10	11	11
応援したい	56	52	64	42	58	53	64	59	47	(5)	63	58	43	50
援助したい 小計	70	63	71	53	79	62	92	69	56	(7)	76	68	54	61
そういう気持はない	30	37	29	47	21	38	8	31	44	(2)	24	32	46	39
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	(9)	100	100	100	100

	家事担当の有無別		自 己 の 職 業 別								家 庭 の 職 業 別					
	家事を 担当する	家事を担 がない	会社員	商工業	労働者	主婦	農林業	学生	自由業	無職	会社員	商工業	労働者	農林業	自由業	無職
参加したい	9	17	13	17	17	8	—	(2)	(3)	12	13	11	8	—	16	9
応援したい	54	54	68	61	44	54	(1)	(2)	(1)	41	57	53	47	(1)	64	62
援助したい 小計	63	71	81	78	61	62	(1)	(4)	(4)	53	70	64	55	—	80	71
そういう気持はない	37	29	19	22	39	38	(1)	(1)	(1)	47	30	36	45	(4)	20	29
計	100	100	100	100	100	100	(2)	(5)	(5)	100	100	100	100	(5)	100	100

値下げ運動のように社会につながる問題については、以上見て来た通りであるが、自ら居住する地域社会の問題に対しどれだけ問題意識をもち、解決に努力しているかについては次のとおりである。

質問

あなたの住んでおられるこの辺で皆の困っていることなどで、あなた方婦人同士で協力して解決したことがありますか。

解決したことがある	7%
解決したことがない	13
困ったことがない	80
計	100%

質問

〔解決したことがあるもの及び解決したことがないものに〕

具体的にどんなことですか。(M.A.)

道路の整備	18%
下水等の清掃処理	15
ゴミの処理	7
貧困、病気の家庭を救った	5
街灯の設置	5
汲取の問題	3
子供の路上遊戯の防止	3
防火設備の問題	2
近所の工場の煤煙・騒音	2
その他	34
不明	8
無回答	6
計	108%

地域社会の中に困った問題があるというものは2割で、そのうち、ほぼ4割(全体の7%)のものは、それを解決したとしている。困った問題の内容として、道路の整備(18%)の外、下水等の処理(15%)ゴミの処理(7%)など、汚物処理に関するものが主として問題として取りあげられているようである。

地域社会内のこの種の問題は、客観的にみて、それが多いか少いか、又それを問題として意識し、とりあげて解決する意欲、あるいは余裕があるかどうか、ということが問題点となろう。

これの階層別傾向を、学歴、生活程度、自己あるいは家庭の職業別に見ると、学歴の高い層、自由業の家庭のものといった比較的意識の高い層と、又それと対照的に意識がやや低いと思われる生活程度の低い層、労働者のものにも、同じように困った問題が多いとし、それを解決したというものが多くなっている。

生活程度が低いと思われる層の居住地域には、事実その種の問題が多いのであろうが、それを問題として取りあげて行くのは、意識の高い層に多いということなのであろう。

なお40代は、生活的に余裕の多い家庭婦人の中心層でもあり、問題を解決したものが多く、また婦人会に加入しているものにも解決したものがやはり多い。

	年 令 別				学 歴 別			生 活 程 度 別				
	20代	30代	40代	50代	高大学卒	新旧高卒	新小中以下	上	中上	中	中下	下
解決したことがある	8	7	11	5	12	9	6	—	11	7	6	13
解決したことがない	12	11	17	11	20	11	13	22	5	11	18	15
困ったことがある小計	20	18	28	16	32	20	19	22	16	18	24	28
困ったことはない	80	82	72	84	68	80	81	78	84	82	76	72
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

	婦人会加入の有無別		家事担当の有無別		自 己 の 職 業 別							家 庭 の 職 業 別						
	加えて入る	加えない	家事担当している	家事担当していない	会社員	商工業	労働者	主婦	農業	学生	自由業	無職	会社員	商工業	労働者	農業	自由業	無職
解決したことがある	12	7	8	7	6	—	13	8	—	(1)	—	4	6	6	9	—	19	4
解決したことがない	7	13	13	12	13	9	17	12	—	(1)	—	15	11	14	11	—	11	25
困ったことがある小計	19	20	21	19	19	9	30	20	—	(2)	—	19	17	20	20	—	30	29
困ったことはない	81	80	79	81	81	91	70	80	(2)	(3)	(5)	81	83	80	80	(7)	70	71
計	100	100	100	100	100	100	100	100	(2)	(5)	(5)	100	100	100	100	(7)	100	100

3. 婦人の団体活動に対する態度

日常生活に関連ある問題に限らず、視野を婦人生活に関連ある問題に広くとつた場合、これについて一般的にどのように見、どのような態度を取っているかを、先ず婦人団体活動について、その現在及び将来に対しいかなる観測を下しているか、その模様から見て行くこととしたい。

質 問

牛乳や電気料金に限らず、婦人生活にむすびついた問題では、婦人同士がまとまって運動すれば、相当な力を発揮して解決できると思いますか。それとも、今のところでは、婦人がいくら集まって運動しても、大したことはできないと思いますか。

相当発揮できる	27%	65%
ある程度発揮できる	38	
大したことはできない	20	
不 明	15	
計	100%	

質 問

「ある程度発揮できる、大したことはできないというものに」

将来は相当発揮できると思いますか。

で き る	49%
で き な い	8
不 明	43
計	100%

牛乳及び電気料金の値下げ運動のように、日常家庭生活に関連ある運動に対して効果を認めるものは、値下げ運動を知っているものの83%（全体の73%）、そのうち、「非常に効果がある」というものが8%であったのに比べれば、「力を発揮して解決できる」と期待を寄せるものは65%と比率が少なくなっている。

しかし、「相当力を発揮して解決できる」というものが27%で、その強度からいえば牛乳及び電気料金の値下げ運動に劣らず、婦人の団体活動に寄せる期待は大きいといえよう。

「ある程度発揮できる」「大したことはできない」と、非好意的あるいは批判的な見方をするものも、現在とはとも角として、将来については「わからない」とするものが多い（43%）のは当然の結果であるが、その約半数は「相当力を発揮できる」という観測を下している。

婦人の団体活動に対して「相当力を発揮して解決できる」と期待を寄せるものは、値下げ運動に対し

「援助したい」という意欲をもつものに多く、現実の問題に対して期待がもてるかどうかは影響していることが知られる。

	発 揮 で き	大 と な し は い た で き	不 明	計	希 望 は あ る	希 望 な い	不 明	計
	%	%	%	%	%	%	%	%
援助したい	79	15	6	100	53	8	39	100
そういう気持はない	49	32	19	100	40	10	50	100

婦人の団体活動に対する態度を階層別に見ると次の如くである。

「力を発揮して解決できる」と期待を寄せる層は、年令別に見ると、若い年令層のものに多いが、30

代には、値下げ運動参加意欲は家事・育児などの家庭的負担の故に、あまり見られなかつたが、婦人の団体活動に寄せる期待は40代よりも大きくなっている。学歴別では学歴の高い層、生活程度別では生活程度の高い層、職業別に見ても自由業のもの、会社員のもの、あるいは自由業の家庭のもの、会社員の家庭のものといった意識の高い層に多いようである。しかし大学高専卒のものは、一方、批判的のものも多いという傾向を示しているのは注目すべきことであろう。婦人会の加入の有無別では、婦人会に加入しているものに多い。

将来の点について注意すべき傾向は、婦人の団体活動を支持するものが多かった大学、高専卒のもの、生活程度中上のもの、婦人会に加入しているものに、「将来も大したことはできない」とするものが多いこと、及び値下げ運動を援助する気持のものが多く、地域社会の問題に対しても、問題を解決したこと多い40代のものにも同様の傾向のあることで、婦人の団体活動の登山の石として、注意すべきことであろうと思われる。

	年 令 別				学 歴 別			生 活 程 度 別				
	20 代	30 代	40 代	50 代	高 大 卒	旧 新 中 高 卒	小 新 卒 中 以 下	上	中 上	中	中 下	下
相当発揮できる	26	30	23	27	36	29	24	(3)	32	30	22	15
或程度発揮できる	47	40	37	24	40	44	32	(3)	50	36	36	35
計	73	70	60	51	76	73	56	—	82	66	58	50
大したことはできない	15	16	29	24	24	16	23	(1)	9	22	24	20
不 明	12	14	11	25	—	11	21	(2)	9	12	18	30
計	100	100	100	100	100	100	100	(9)	100	100	100	100
将来はできる	56	49	36	49	44	55	44	(2)	46	55	43	36
将来もできない	7	5	17	6	19	8	8	—	12	8	10	5
不 明	37	46	45	45	37	37	48	(2)	42	37	47	59
計	100	100	100	100	100	100	100	(4)	100	100	100	100

	婦人会に加入の有無別		家事の負担の有無別		自 己 の 職 業 別								家 庭 の 職 業 別					
	加 入 し て い る	加 入 し て い ない	加 入 し て い る	加 入 し て い ない	会 社 員	商 工 業	労 務 者	主 婦	農 林 業	学 生	自 由 業	無 職	会 社 員	商 工 業	労 務 者	農 林 業	自 由 業	無 職
相当発揮できる	37	26	26	28	35	36	13	25	(1)	(3)	60	24	31	28	18	(1)	31	32
ある程度発揮できる	36	38	37	40	46	27	50	38	(1)	(2)	20	24	42	36	36	(2)	39	29
計	73	64	63	68	81	63	63	63	—	—	80	48	73	64	54	—	70	61
大したことはできない	17	20	22	15	15	14	23	22	—	—	20	19	20	22	(2)	—	15	21
不 明	10	16	15	17	4	23	14	15	—	—	—	32	8	16	24	—	15	18
計	100	100	100	100	100	100	100	100	(2)	(5)	100	100	100	100	100	(5)	100	100
将来はできる	59	48	47	56	48	44	45	49	—	(2)	—	50	54	43	44	(2)	50	50
将来もできない	14	8	9	7	10	—	9	9	—	—	—	10	4	11	14	(1)	—	7
不 明	27	44	44	37	42	56	46	42	(1)	—	(2)	40	42	46	42	(1)	50	43
計	100	100	100	100	100	100	100	100	(1)	(2)	(2)	100	100	100	100	(4)	100	100

次に婦人の団体活動に対する態度を別の角度から捉えるため、「婦人同士の会」とは角うまくゆかないことが多いという一部の世評に対してどのように反応するか、又うまくゆかないとすれば、その原因がどこにあると思っているのかを更に聞けば、次の如くである。

質 問

世間では「婦人同士の会」とは角うまくゆかぬことが多いという人もいますが、あなたもそう思いますか。

うまくゆかぬことが多いと思う 40%
 そうは思わない 56
 わからない 4

計 100%

質 問

〔うまくゆかぬことが多いと答えたものに〕

ここにあげた原因のうち、どれが大きな原因だと思いますか。(M.A.)

〔別紙提示〕

家事や育児に忙しくて時間が足りない 41%
 男に比べて知識が足りない 28
 嫉妬したり、感情的になる 29
 世間がせまい、自己本位で全体として物を考えない 26
 周囲の人に理解が足りない 14
 幹部の人の指導力が足りない 11
 そ の 他 6

計 155%

「婦人同士の会」はうまくゆかないという世評に対して、否定的に「そう思わぬ」と回答するものは過半数の56%であるが、「うまくゆかぬことが多いと思う」と世評に同調するものも40%いる。

「うまくゆかないことが多いと思う」というものは、その原因として「家事、育児による多忙」という家庭的負担に帰するものが当然の結果ながら一番多い(41%)。次いで女性の感情的原因に基づく理由(しつと29%、自己本位26%)、あるいは知識の不足(28%)などがあげられているが、周囲の人の理解の不足(14%)、幹部の人の指導力の不足(11%)というように、責任を自己以外に転嫁させるといふより、主体の側における原因をとりあげた自己反省的な色彩が強い特徴的な傾向となつてい

この原因の階層別傾向を、次に参考に掲げることとする。

	年 令 別				未婚別		学 歴 別			生 活 程 度 別								
	20代	30代	40代	50代	未婚	既婚	高大学卒	新旧高中学卒	小新卒以下	上	中上	中	中下	下				
知識が足りない	23	23	41	22	21	28	15	28	29	—	24	27	28	40				
感情的になる	23	36	19	36	33	28	23	25	32	(1)	24	34	24	22				
家事・育児に忙しい	43	44	35	39	38	41	46	41	40	—	24	46	41	44				
世間がせまい	30	27	24	19	25	26	31	32	20	(1)	24	29	22	22				
周囲に理解がない	15	6	27	11	21	13	15	20	10	(1)	33	12	13	—				
幹部の指導力不足	9	10	11	14	4	12	8	16	7	—	9	10	13	22				
そ の 他	6	4	11	6	12	5	8	3	8	—	9	5	7	5				
	婦人会加入の有無別		家事担当の有無別		自 己 の 職 業 別						家 庭 の 職 業							
	婦加入人入会して	婦加入人入会してない	家事当る人入会して	家事当る人入会してない	会社員	商工業	労働者	主婦	農林業	学生	自由業	無職	会社員	商工業	労働者	農林業	自由業	無職
知識が足りない	25	28	29	21	22	36	31	29	—	—	18	34	22	27	(2)	—	25	
感情的になる	58	26	28	29	22	36	31	28	—	(1)	36	29	26	44	—	(3)	17	
家事育児に忙しい	33	42	42	35	28	18	31	45	—	(1)	(1)	54	41	32	45	(1)	(4)	58
世間がせまい	17	26	26	26	44	9	23	26	(1)	—	9	28	30	20	(2)	—	25	
周囲に理解がない	17	14	12	21	22	18	7	12	(1)	—	18	18	14	0	(3)	(3)	8	
幹部の指導力不足	8	11	13	0	22	0	0	12	—	—	0	16	8	4	—	—	25	
そ の 他	0	7	5	12	11	0	7	6	—	—	9	6	4	9	—	(1)	0	

(注) この分析表はM.A.のため、計は100%を超える。

4. 選挙に対する関心と政治的態度 ～1955年2月の選挙を中心として～

政治に対する関心の現実的な指針は、選挙においてより明瞭に表明されるだろうと思われる。問題は、現在どの程度関心を持ち、権利として意識して、これを行行使するに至っているかということであろう。

この点について、去る2月に施行された衆議院の選挙を中心に見て行くこととする。

1) 関心とその内容

選挙に対する関心の一つの指標となるものは、投票率、自律性、投票時期の問題などがあり、これが一応関心の概要を伝えるものとなろう。以下にこれを見た上で、更に関心がどの程度の内容のものかを検討することとしたい。先ず投票率であるが、選挙に対する関心も高く、出足も良好と一般にいわれた今次選挙についての本調査の結果は次の通りである。

質 問

選挙についてお伺いしますが、あなたは今度の選挙で投票なさいましたか。

投票した 75%
 し ない 24
 選挙権なし 1

計 100%

投票率は75%となっており、東京都内区部における実際の婦人の投票率61%に比べて14%上回っていることになる。(注)

(注) 棄権者が投票したというものと調査当日すでに転居その他で移動したもので実際に投票した率が上廻ることが知られている。この調査事例として昭和28年3月国立世論調査所が実施した「投票の心理」が参考になる。

次に階層別傾向を見る前に、投票率と生活状態、あるいは日常生活における態度とはどのように関連しているかを見ておきたい。即ち投票したものは、現在の生活が「よくなった」もの、「よくなる」と思うものに、また日常生活において「自分の家が楽しくやつてゆけるためには一生懸命家のことをやるだけでは十分ではない」と伝統的な生活の観念から脱却しているもの、あるいは「政治のことをいつても嫌われるという気がしない」という政治的発言に対する心理的障害の薄らいでいるものに多くなっている。

以上の結果は、生活状態の向上と共に、また将来向上の期待がもてるかどうかの影響して投票率が高くなること、なお伝統的な観念が啓蒙されて初めて選挙の関心がたかまることを示すものであろう。

	一年前と比べて 暮 し は				こ れ か ら 先 暮 し は				自 分 の 家 が 楽 し く 暮 し て 行 け る た め に は				女 が 政 治 の こ と を 言 つ て も 嫌 わ れ る と い う 気 が		
	よつた な	変ら ぬ	悪つた な	不 明	よる な	変ら ぬ	悪る な	不 明	一家を 生かす こと	どち もぬ らい	そはで れ十な で分い	不 明	す る	し ない	不 明
投票した	78	78	72	57	83	76	71	72	78	70	81	64	72	79	56
投票しない	22	21	28	36	17	23	29	27	22	30	18	33	28	20	44
選挙権なし	—	1	—	7	—	1	—	1	—	—	1	3	—	1	—
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

投票率の階層別傾向は、投票しなかつたものを一応関心が薄いと見て、これを主として見て行くと、年令別では30代、50代に、学歴別では学歴の低い層に、生活程度別では中以下の階層のものに多い。婦人会に加入している与否とでは差異が認められないことも、一応注意すべきことであろうと思われる。自己の職業別では、労務者を除いて、いずれかといえば社会的接触の少ない無職のものに多く、家庭の職業別では比較的意識の高い自由業の家庭のものに多いのは注目される。

	年 令 別				学 歴 別			生 活 程 度 別				
	20代	30代	40代	50代	高 大 専 卒	旧 新 中 高 卒	小 新 卒 中 以 下	上	中 上	中	中 下	下
投票した	78	70	82	71	84	81	70	(6)	82	77	70	75
投票しない	20	30	18	29	16	19	29	(3)	18	22	28	25
選挙権なし	2	—	—	—	—	—	1	—	—	1	2	—
計	100	100	100	100	100	100	100	(9)	100	100	100	100

	婦人会加入の有無別		家事担当の有無別		自 己 の 職 業 別							家 庭 の 職 業 別						
	婦人会加入している	婦人会加入していない	家事担当している	家事担当していない	会社員	商工業	労務者	主婦	農業	学生	自由業	無職	会社員	商工業	労務者	農業	自由業	無職
投票した	76	75	77	70	83	82	63	77	(2)	(4)	(4)	59	78	75	75	(4)	69	75
投票しない	24	24	23	28	17	18	30	23	—	(1)	(1)	39	22	23	25	(3)	31	25
選挙権なし	—	1	—	2	—	—	7	—	—	—	—	2	—	2	—	—	—	—
計	100	100	100	100	100	100	100	100	(2)	(5)	(5)	100	100	100	100	(7)	100	100

投票の傾向については以上の如くであつたが、果して自律的に候補者を決めていたかどうか、もし相談したとしたら誰に相談したか、その状況を聞いてみると次の如くなる。

質 問

誰を選挙したらよいか決まらなくて、誰かに相談してきめましたか、人とは相談せずに自分できめましたか。

誰の意見もきかないで自分できめた	75%	(全体の57%)
人の意見もきいたが自分できめた	20	
はつきりわからないで人の意見できめた	5	
計	100%	

質 問

〔人の意見もきいたが自分できめたもの、及びはつきりわからないで人の意見できめたものに〕

誰の意見を参考にしましたか。(M.A.)

祖父	—	姉	—
祖母	—	その他の家族	22% (18)
父	12% (10)	親戚	2 (2)
母	2 (2)	会社の上役	—
舅	—	近所の人	10 (8)
姑	—	友人知人	7 (6)
夫	54 (44)	その他	5 (4)
兄	5 (4)	計	119% (98)

〔注〕 () 内は実数を示す

投票したものの大部分のもの(75%、全体の57%)が自律的に候補者をきめており、残りのもの(25%)は人の意見もきいたものだが、そのうちには全く自律性が欠けるとされるものも若干いるようである(5%)。

なお、人の意見を参考にしたものは実数が少く、又これを更に家族構成によつて分析してみなければ、はつきりしたことはわからないのであるが、誰の意見を参考にしたかの結果は、やはり夫の意見をきいたものが最も多く(54%)、次いでその他の家族(22%)、父(12%)、近所の人(10%)の順になつており、舅・姑の意見を参考にしたというものは見当らない。

家族の中でも、横の家族関係に対して、縦の家族主義的な関係のものが優先してないのは、対象者が東京に限られており、比較的家族主義的色彩が薄いためであろう。

以上からいえば、概して投票率も高く、投票に当つては自律的な態度のものが多いということがいえよう。

次に、候補者を選定した時期が早いか遅いかの問題も、関心に関連があるとみて、これについて質問した結果は

質 問	
選挙する人がきまつたのは選挙の前の日ぐらいですか、それより前でしたか。	
〔当日又は前日より前といったものに〕	
候補者が出揃った頃（2月の初め）ですか、そんなに前でもありませんでしたか。	
候補者が出揃った頃（それ以前）	48%
それ以後	34
前日あたり（当日）	17
忘 れ た	1
計	100%

となり、2月の初旬には候補者が出揃ったのであるが、その頃あるいはそれ以前に、約半数（48%）のものが候補者をきめたとしており、比較的早くきまつているようである。

以上見たように、投票率もよく、候補者の決定に当たっても自律的に決定しているものが多く、その時期も早く、関心は概して高いように見える。しかし、その内容的な面について、候補者の決定の時期の問題、選挙の予備知識の程度、あるいは自主性などの意識、内容にわたって更に見て行く必要がありうと思われる。

	候補者が 出揃った頃	それ以後	前日 あたり	忘 れ た	計
同じ人 がう人 忘れた	71% 36 —	20% 42 86	8% 22 14	1% — —	100% 100 100

まず候補者を決定した時期について見るならば、約半数が候補者の出揃った2月初め、あるいはそれ以前に決めていたのであるが、その頃にきめていたものは、前回の候補者と同じ人——固定票が多く、固定票の7割は、

その頃にきめた人であるのは、上表で見る通りである。

次に選挙に必要な予備知識をどの程度もっていたか、又それを得た経路はなんであつたかを問くと、次のようになる。

質 問	
保守的な政党、革新的な政党という言葉を知っていますか。	
知っている	72%
知らない	28
計	100%

質 問

今度の選挙で、政党も候補者も住宅を作るとか、税金を減らすとか、資金を貸すとか、いろいろの約束をしていたのを御存知ですか。

知っている	81%
知らない	19
計	100%

質 問

ところであなたが選挙する人をきめる時、この中で参考にしたものがありますか。（M.A.）

〔別紙提示〕

新 聞	56%	家族の人の話	24	} 34%
ラジオ（候補者の政見）	35	他人の話	10	
ラジオ（政治討論会）	19	選挙公報	29	
立会演説	17	そ の 他	2	
候補者の演説会	16	何もない	5	
		計	213%	

選挙の基礎的な知識を知らないというものは2割程度で、よく知られているようである。

その知識を得た経路については、やはり新聞を参考にしたものが多い（56%）が候補者の政見（33%）、政治討論会（19%）なども、ラジオを通じてきかれており、結局ラジオを通して参考にしたもののは54%となり、殆んど新聞との差異は認められない。次いで立会演説あるいは候補者の演説会及び人の話などであるが、それに比べて選挙公報を参考にしたもののは29%に止まり、参考にあげたものが多いのは、関心が積極的でない一面を示すものとして注意すべきであろう。

選挙の予備、あるいは基礎的な知識を知らないものは2割程度であつたが、知っているとしても、それが正確な知識であつたかどうかを、試みに保守革新別の知識について整理すれば下表の如くなる。

自分の投票した人が保守革新何れの党に属していたか区別が		
できて投票したもの	57%	（全体の43%）
できなくて投票したもの	37	（ " 28 " ）
不 明	6	（ " 5 " ）
	100%	

即ち、投票したものの37%（全体の28%）が自分の投票した党の保守革新別を知らないか、区別できないままに投票しており、知識の内容の正確さという点ではおちるようである。

なお、投票したものの保守革新別を参考までに下に掲げることとする。

	民 主	自 由	左 社	右 社	労 農	共 産	無 所 属	諸 派	言 い え な	不 明
保守的な政党だと思つて投票したもの	63	66	4	7	—	—	—	—	26	—
革新的な政党だと思つて投票したもの	10	5	84	68	—	50	—	—	24	—
不明	2	5	4	4	—	50	50	—	26	20
音楽を知らない	25	24	8	21	—	—	50	100	24	80
計	100	100	100	100	—	100	100	100	100	100

関心の内容については、選挙権が権利として意識され、行使されているかどうか、その自主性の程度について知り得たなら、より明らかとなる。

質 問

〔投票したものに〕

選挙する時、あなたは「私たちが政府をきめるのだ」という気持と、それほど大げさな気持ではなく、「選挙しないとわるいから」という気持と、どちらに近かつたでしょうか。

私達が政府をきめる	69%
選挙しないとわるいから	10
どちらともいえない	18
そ の 他	3
計	100%

質 問

〔以下投票しなかつたものに〕

選挙に行かれなかつたのは、いろいろの事情がございましょうが、あなたのお気持は次のどれが一番近いでしょうか。〔別紙提示〕

大して気にならぬ	22	64%
何んだか責まない気がする	42	
権利を使えなくて残念である	13	
そ の 他	23	
計	100%	

質 問

誰に入れるか、一応きめていましたか、全然決まっていなかったか。

きめていた	50%
きまっていなかった	50
計	100%

投票したもののほぼ7割が自主的に「私達が政府をきめる」という態度のもので、残りの3割はこの態度を欠くものである。投票しなかつたものは一応関心が薄いと見られるが、なお質問した結果では、さすがに選挙を権利として意識し「投票しなかつたのを残念である」とする自主的な態度のものは少く、その13%に過ぎず、過半数(64%)は権利としての意識をかくか、自主性の乏しいもので、そのうちの22%は、はつきりと「大して気にならない」とするものである。その態度はとも角として、誰に入れるか一応きめていたかどうかを聞いても、「一応きめていた」と「全然きめていなかった」との相半ばしており、投票しなかつたものは関心の薄い、自主性に欠ける人々を見てよいであろう。投票しなかつたが「権利が使えなくて残念である」というものに、「私達が政府をきめる」という自主的な意識で投票したものを加えれば、結局選挙に対して自覚的な意識をもっていたと思われるものは全体の56%である。

以上、関心についていえば、概略的には関心も高く、自律的な態度のものが多いが、知識あるいは自主的な意識などその内容においては、それほど十分だとはいえないといえることができる。この自主的な態度の階層別傾向は次の如くなり、その差異は明瞭に認められる。即ち、年齢別では年齢の若い層ほど、未婚別では未婚のものに、学歴別では学歴の高い層ほど、生活程度別では生活程度の高い層ほど、自主的な態度のものが多い。婦人会の加入の有無別では、加入しているものに、職業別では商工業のもの及びその家庭のものに、かかる態度のものが多く、無職のものはそれに比べてかなりの較差で少いのは興味ある傾向である。

	年 令 別				未既婚別		学 歴 別			生 活 程 度 別				
	20 代	30 代	40 代	50 代	未 婚	既 婚	高 大 卒	旧 中 卒	小 新 卒 中 下	上	中 上	中	中 下	下
政府をきめる	77	70	71	54	78	67	90	74	62	(6)	80	68	66	62
しないとわるい	6	8	17	10	9	10	10	8	12	—	11	13	7	3
どちらともいえない	16	16	12	32	11	20	—	16	23	—	9	17	23	32
そ の 他	1	6	—	4	2	3	—	2	3	—	—	2	4	3
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	(6)	100	100	100	100

	婦人会加入の有無別		本人の収入の有無別		自 己 の 職 業 別							家 庭 の 職 業 別						
	婦人加入 会に入 会して	婦人加入 会に入 会して	取り 入る	取り 入る	会 社 員	商 工 業	労 務 者	主 婦	農 業	学 生	自 由 業	無 職	会 社 員	商 工 業	労 務 者	農 業	自 由 業	無 職
政府をきめる	77	68	67	70	75	78	74	70	(1)	(3)	(3)	45	71	73	70	(1)	67	55
しないとわるい	10	10	9	11	7	6	10	11	—	—	—	11	10	12	4	(1)	11	18
どちらともいえない	10	19	21	17	18	11	11	16	(1)	—	—	44	17	14	23	(2)	11	27
そ の 他	3	3	3	2	—	5	5	3	—	(1)	—	—	2	1	3	—	11	—
計	100	100	100	100	100	100	100	100	(2)	(4)	(3)	100	100	100	100	(4)	100	100

2) 候補者を決定する要素

自分の投票する候補者を決定する要素は、種々の角度から眺め得るものであり、婦人の政治的態度を決定する重要な前提となると思われる。まず党のどういう方面に注目したかを聞いてみると次の如くなる。

質問

〔投票したものに〕

特にその政党(無所属)が好きだったのですか、それとも好きというほどでもなかったのですか。

好 き	42%
それほどでもない	55
不 明	3

計 100%

	保 守	革 新
好 き	38	49
それほどでもない	59	48
不 明	3	3
計	100	100

まず、その党が好きであつたかどうか。過半数の55%は「それほど好きでもない」が、その党に投票している。これを保守革新の支持別に見れば、「それほど好きでもない」が投票したというものが保守支持者に、「好き」で投票したというものが革新支持者に多くなっている。

自分の投票した党が「好き」にせよ「それほど好きでない」にせよ、その党を支持した理由を開けば次の通りである。

質問

〔好きというものに〕

あなたがその政党を好きなのは信頼できる人物がいるからですか、それとも、その政党の政策がよいからですか。

信頼できる人物がいる	38%
政策がよい	37
両 方	21
不 明	4

計 100%

質問

〔それほどでもないというものに〕

それほど好きでもない政党に投票なさつたのは、どうしてでしょうか。

人物がよい	47%
比較的 policy がよい	26
両 方	7
他に適当な政党がない	14
そ の 他	6

計 100%

その党を支持して投票した理由は、いずれの場合も、まず「人物」という理由が他の理由に優先していることが知られる。

しかし詳しく見ると、「好き」で投票したものと「それほど好きでもない」が投票したものとでは、内容に顕著な差異がある。

即ち「それほど好きでもない」が投票したというものは、「人物」という理由がほぼ半ばを占め(47%)、「政策」という理由より21%も多く、「両方」というものは僅かに7%で、「政策」に対する「人物」の優位という特徴的傾向があるのに比べて、「好き」で投票したというものは「人物」という理由と「政策」という理由の差異は殆んど認められず、「両方」というものが21%も占めており、「人物」という理由と「政策」という理由とは、均衡が取れていることが指摘できよう。

以上の結果を整理して概括的に示せば、政党のどういう点に注目したかは次の通りとなる。

人物を重視したと思われるもの	43%
政策	31
両方	13
他に適当な政党がないことを理由としたもの	8
その他の理由でその党を選んだもの	3
その政党を選んだ理由がはつきりしないもの	2
計	100%

以上の如く、人物を重視したと思われるものが43%で最も多く、特徴的な傾向となつており、政策を重視したと思われるものは31%でこれに次いでいるが、保守革新の支持別にこれを見れば下表の如くである。

	政策を重視したと思われるもの	人物を重視したと思われるもの	両方	他に適当な政党がないことを理由としたもの	その他の理由でその党を選んだもの	その政党を選んだ理由がはつきりしないもの	計
保 守	28%	10%	46%	10%	4%	2%	100%
革 新	36	18	37	6	2	1	100

即ち、政策を重視したと思われるものは革新の支持者に、人物を重視したと思われるものは保守の支持者に多く、また革新の支持者のうちでは、政策を重視したと思われるものと、人物を重視したと思われるものには、殆んど差が認められない。

以上の如くに、保守の支持者と革新の支持者とでは、それぞれ候補者を決定するに当つて政党あるいは政策と人物に対する見方において、明らかな差異が認められるようである。

以下では、政党あるいは政策と人物の考え方について検討してゆくこととする。

まず保守革新の投票結果は

保守的な政党に投票したもの	51%
革新的な政党に投票したもの	33
いえない	13
不 明	3
計	100%

約半数が保守に投票し、3割強が革新に投票している。

次に、先に見たように、政策を重視したと思われるものは約3割であつたが、一般に政策に対してはどのような見方をしているのかを、公約不信の感情の有無について見ると

質 問	
〔公約を知っているものに〕	
選挙の時のこういう約束は選挙の時だけのことで、実際にやれるかどうかあてにならないと思いますか、全部できないにしても、多少はやつてくれると思いますか。	
あてにならない	27%
多少はやつてくれる	69
全部やつてくれる	1
不 明	3
計	100%

となり、公約を知っているものの7割は多少ともやつてくれると思つてゐるものであるが、「あてにならない」とはつきりいうものも27%（全体の27%）はいる。

更にこの結果を投票の有無別に見ると、公約のあつたことを「知らぬ」ものあるいは公約を「あてにならない」というものは、投票しなかつたものに多くなつてゐるが、投票したもの16%は公約のあつたことを「知らず」に投票しており、ほぼ2割は「あてにならない」としながら投票している。

以上からいえば、公約に対する信頼感は厚いとはいえないといえよう。

	あてにならない	多少はやつてくれる	全部やつてくれる	不 明	公約知らぬ	計
した	19%	62%	1%	2%	16%	100%
しない	83	35	1	2	29	100
選挙権なし	—	(2)	—	—	(1)	(3)

公約不信についての階層別傾向を見れば次の如くである。

年齢、学歴、生活程度、職業別を通じて注意すべき傾向は、生活程度で下の階層、及び家庭の職業別で労務者の家庭のものに公約のあつたことも知らぬものも、公約を「あてにならない」とするものも多いのは別として、公約のあつたことを知つてゐるものの多い若い年齢層の30代のもの、意識の高い、大学高専卒のもの、生活程度中の階層のもの、会社員のもの、あるいは会社員の家庭のものに、公約を「あてにならない」と不信を表明するものが多いということである。なお、婦人会に加入しているもの、主婦及び商工業のものにも、「あてにならない」というものも多く、また無職のものには著しく公約を知らぬものが多いことがあげられる。

		年 令 別				学 歴 別			生 活 程 度 別										
		20 代	30 代	40 代	50 代	高 大 学 卒	旧 新 中 高 卒	小 新 中 以 下	上	中 上	中	中 下	下						
選挙の時の公約は	あてにならない	22	29	23	13	24	22	22	—	20	25	18	25						
	多少はやつてくれる	65	53	52	49	68	65	46	—	57	58	55	35						
	全部やつてくれる	1	1	1	1	—	2	1	—	2	1	1	—						
	不 明	1	3	2	2	4	1	3	—	2	2	2	5						
	公約を知らぬ	11	14	22	35	4	10	28	—	19	14	24	35						
計		100	100	100	100	100	100	100	—	100	100	100	100						
		婦人会加入の有無別				家事担当の有無別				自 己 の 職 業 別				家 庭 の 職 業 別					
		婦人会加入の有無別	家事担当の有無別	家事担当の有無別	家事担当の有無別	会 社 員	商 工 業	労 務 者	主 婦 業	学 生	自 由 業	無 職	会 社 員	商 工 業	労 務 者	農 業	自 由 業	無 職	
選挙の時の公約は	あてにならない	27	22	22	24	21	23	10	25	(1)	(2)	—	17	26	18	25	—	15	14
	多少はやつてくれる	51	56	56	54	75	45	70	54	—	(3)	—	35	63	54	46	—	69	46
	全部やつてくれる	2	1	1	1	—	5	—	1	—	—	(5)	2	1	1	—	—	4	4
	不 明	—	2	2	—	—	—	3	2	—	—	—	2	1	1	5	—	—	4
	公約を知らぬ	20	19	19	21	4	27	17	18	(1)	—	—	44	9	26	24	—	12	32
計		100	100	100	100	100	100	100	100	(2)	(5)	(5)	100	100	100	100	—	100	100

なお、どんな政策がよいと思つてゐるかを、「好き」でその党を投票し、その理由として「政策がよい」「政策も人物もよい」というものに関した結果を参考までに掲げれば下表の如くである。

再軍備反対	19%	明るい政治	7
社会保険	18	住 電	4
一般大衆の政党	9	経済政策	4
減 税	7	公約実行	3
平和外交	7	そ の 他	4
憲法改正反対	7	具体的にいえない	22
		計	111% (M.A.)

政党のどのような点に注目したかについては、「人物」を重視するものが最も多かつたが、人物の選定に当つてその考え方に影響があると思われる傾向を見て行けば次の如くなる。

質 問

〔全員に〕

ここに2人の代議士がいて、そのうち何れかを選ばなければならないとします。その場合、とかくよくない評判はあつても実行力のある人と、実行力はあるというほどでもないが、いろいろの評判の立たない人があつたとします。その時、あなたほどどちらを選びますか。

実行力のある人	54%
いろいろ評判の立たない人	25
両方だめ	6
どちらともいえぬ	2
不 明	13

計 100%

質 問

〔投票したものに〕

あなたが選挙する人をきめる時に「婦人のために働いてくれるような人」に入れたいと考えましたか。

婦人のために条件とした	26%
し ない	64
そ の 他	3
不 明	7

計 100%

人物を選定するに当つては、「よくない評判はあつても実行力のある人」という考え方が強く、過半数の54%で、また婦人として「婦人のために条件とする」という考え方は弱く(26%)、大多数のもの(64%)は、かかる条件を候補者選定に当つて考慮に入れていなかったようである。

以上の階層別傾向は下表の通りである。

	年 令 別				学 歴 別			生 活 程 度 別				
	20代	30代	40代	50代	高大学卒	旧新中高卒	小新卒以下	上	中上	中	中下	下
婦人のために条件とした	32	27	27	16	28	29	23	(2)	28	27	28	17
し ない	61	63	62	71	67	62	66	(3)	65	64	64	63
そ の 他	2	4	3	3	1	5	1	(1)	2	2	2	7
不 明	5	6	8	10	5	4	10	—	5	7	6	13
計	100	100	100	100	100	100	100	(6)	100	100	100	100

	婦人入会に加入	婦人入会に加入しない	家事担当	家事担当でない	自 己 の 職 業 別							家 庭 の 職 業 別						
					会社員	商工業者	労務者	主婦	農業者	学生	自由業	無職	会社員	商工業者	労務者	農業者	自由業	無職
婦人のために条件とした	26	27	26	27	25	22	37	26	(1)	(1)	(1)	26	31	31	18	(1)	17	19
し ない	71	63	64	63	72	56	58	64	(1)	(3)	(3)	59	64	58	68	(2)	72	71
そ の 他	—	3	3	1	3	—	5	3	—	—	—	—	3	2	4	—	—	—
不 明	3	7	7	9	—	22	—	7	—	—	—	15	2	9	10	(1)	11	10
計	100	100	100	100	100	100	100	100	(2)	(4)	(4)	100	100	100	100	(4)	100	100

婦人のために条件としたという考え方は弱く、26%であつたが、それはそれとして、投票に当つて婦人候補者を選んだかどうかについては

質 問

〔婦人候補者のいた地区のものに〕 あなたの選挙した人は婦人でしたか。

婦人候補者	14%
男子候補者	86

計 100%

婦人候補者のいた地区の14%が婦人候補者に投票しているのに止まり、「婦人のために条件とする」考え方よりも更に弱くなっている。婦人候補者に投票したものの階層別傾向は年令別では30代のもの、学歴別では新制中学小卒以下のもの、生活程度別では中下の階層のもの、職業別では労務者と無職あるいはそれらの家庭のものといった意識が比較的低く、恵まれない層が多く、それと対照的に大学高専卒のもの、生活程度上の階層のものは、全く婦人候補者に投票していない。婦人会に加入しているものはむしろ婦人候補者に投票しておらず、また商工業のものも同様の傾向を示しているのは注目される。

	年 令 別				学 歴 別			生 活 程 度 別				
	20代	30代	40代	50代	高大学卒	旧新中高卒	小新卒以下	上	中上	中	中下	下
婦人候補に投票したもの	14	17	11	13	—	14	16	—	15	14	17	8
男子候補に投票したもの	86	83	89	87	100	86	84	100	85	86	83	92
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

	婦人入会に加入	婦人入会に加入しない	家事担当	家事担当でない	自 己 の 職 業 別							家 庭 の 職 業 別						
					会社員	商工業者	労務者	主婦	農業者	学生	自由業	無職	会社員	商工業者	労務者	農業者	自由業	無職
婦人候補に投票したもの	—	15	13	16	7	—	20	15	(1)	(1)	—	20	16	12	14	(1)	7	14
男子候補に投票したもの	100	85	87	84	93	100	80	85	(1)	(3)	(3)	80	84	88	86	(3)	93	86
計	100	100	100	100	100	100	100	100	(2)	(4)	(3)	100	100	100	100	(4)	100	100

以上、選挙をふりかえって見て、その結果満足すべき人物に投票していたかどうかは、

質 問

あなたの選挙した人は、「この人に是非出てもらわなくては」と思う人でしたか、「まあよさそう
だ」と思う人でしたか。

理想的な人	38%
まあよさそうな人	54
そ の 他	2
不 明	5
計	100%

ほぼ4割のものが投票した人は「理想的な人」だったと満足しており、過半数のもの(54%)が、それほどの人ではなかったと選挙をふりかえっている。

5. 婦人週間に対する関心と希望

終戦後憲法の改正によつて男女同権の原則が確認された。意識的にはとにかく、日まだ浅い現在としては、実際的にもどの程度それが滲透し得たかは論議のあるところであろう。この推進運動として、婦人週間が毎年四月十日から十六日までの一週間、労働省の主唱で展開される。それに対し、女性としての程度の関心と希望をもつかを聞いてみると次の如くなる。

質 問

婦人週間というものを御存知ですか。

知っている	62%
知らない	38
計	100%

質 問

〔以下知っているものに〕何でお知りになりましたか。(M.A.)

新 聞	65%
ラ ジ オ	52
雑誌、パンフレット	13
婦人会その他の会合	3
友人、知人の話	6
そ の 他	2
不 明	4
計	145%

質 問

どこの役所が中心になつて行っているかを御存知ですか。

正 答	10%	} 13% (全体の8%)
半 正 答	3	
誤 答	2	
不 明	85	
計	100%	

質 問

毎年いつ頃行われるかを御存知ですか。

知っている	22% (全体の13%)
知らない	78
計	100%

まず婦人週間については過半数の62%が知っている。その知識を得た経路は、やはり新聞で得たものが最も多く(65%)、次いでラジオ(52%)が主なものである。

ただし、婦人週間を知っているというものの、その主体がどこであるか、正確な知識をもっているかという点では、その13%(全体の8%)が正しく或いは半ば知っているにしか過ぎず、また毎年の開催時期についても、知っているものは22%(全体の13%)の程度である。

婦人週間を知っているものの階層別傾向は次の如くである。即ち、年齢別では年齢の若い層ほど、学歴別では学歴の高い層ほど、また生活程度別では生活程度の高い層ほど、婦人週間を知っているものが多い。なお、大学高専卒のものは88%に及ぶ。更に婦人会加入の有無別では加入しているものに、自己の職業別では会社員のもの及び労務者の意識の低いと思われる層に、比較的知られていることは注目される。家庭の職業別では、やはり会社員の家庭のもの、自由業の家庭のものに知っているものが多い。

		年 令 別				学 歴 別			生 活 程 度 別				
		20 代	30 代	40 代	50 代	高大 卒	旧新 中高 卒	小新 卒中 以下	上	中 上	中	中 下	下
婦人週間を	知っている	79%	66%	53%	40%	88%	73%	49%	(7)	71%	68%	52%	38%
	知らない	21	34	47	60	12	27	51	(2)	29	32	48	62
	計	100	100	100	100	100	100	100	(9)	100	100	100	100

		婦人会加入の有無別		家事担当の有無別		自己の職業別								家庭の職業別					
		婦人会に加入している	婦人会に加入していない	家事を担っている	家事を担っていない	会社員	商工業者	労働者	主婦	農業者	学生	自由業	無職	会社員	商工業者	労働者	農業者	自由業	無職
婦人週間に 関心がある	知っている	73	60	62	61	83	59	63	59	(2)	(5)	(4)	48	70	59	52	(4)	65	54
	知らない	27	40	38	39	17	41	37	41	—	—	(1)	52	30	41	48	(3)	35	46
	計	100	100	100	100	100	100	100	100	(2)	(5)	(5)	100	100	100	100	(7)	100	100

なお、婦人週間を何で知ったかの階層別傾向を参考までに掲げれば次表の如くである。

	年 令 別				未婚別		学 歴 別				生活程度別				
	20代	30代	40代	50代	未婚	既婚	高大学卒	旧新中高卒	小中高以下		上	中上	中	中下	下
新 聞	68	65	62	61	68	64	68	68	61	(6)	52	66	74	47	47
ラ ジ オ	50	51	52	61	53	52	50	56	49	(3)	55	60	45	47	47
パンフレット・雑誌	18	12	10	7	17	12	14	16	10	—	7	20	8	—	—
婦人会その他の会合	3	3	6	—	—	3	5	—	5	—	2	3	1	7	7
友人知人の話	5	4	10	10	7	6	5	3	10	(1)	2	4	9	13	13
そ の 他	3	3	2	—	5	1	—	4	1	—	7	1	1	—	—
不 明	2	4	6	3	2	5	9	5	2	—	5	6	—	7	7

婦人週間に開催されるものには労働省の主催の全国婦人会議などがあるが、全国においてはそれぞれの団体が各種の行事を行っている。それについての知識は

質 問

婦人週間には女性の地位を高めるために、労働省婦人少年局や種々の婦人団体が中心になつていろいろの催しがあるのですが、どんなことをやっているか知っていますか。

知っている 11%
知らない 89%

計 100%

質 問

〔知っているものに〕どんなことですか。(M.A.)

講演会	33%	ラジオ放送	11
婦人大会	26	そ の 他	23
討 論 会	22	忘 れ た	4
		計	119%

婦人週間中の開催行事について知っているものは全体の1割程度に止まる。なお、婦人週間に開催される行事の内容としてどんなことを知っているかについては、講演会というものが最も多く(33%)、ついで婦人大会(26%)、討論会(22%)となつている。

婦人週間に対する関心の傾向は以上の如くであるが、婦人週間に寄せる希望は何かを聞いてみると次の如くである。

質 問

婦人週間のことで、できればこういうことをして欲しいというようなことはありませんか。どんなことですか。

婦人の地位、教養の向上	5%
生活の安定ならびに援助	5
婦人の集いをいろいろの形で開いてもらいたい	3
婦人週間組織のための広範な報道	3
そ の 他	3
別にない、わからない	81
計	100%

婦人週間に希望を寄せるものはほぼ2割であるが、希望としてはやはり婦人の地位の向上を望むものと、生活の安定ならびに援助を望むものが多いのは、一部の女性の切実な声の反映とみるべきであろう。

IV 付 録

(1) 質問票及び別紙

Q. 1. この頃のお宅の暮らし向きは、去年の今頃と比べて、よくなりましたか、悪くなりましたか、それともあまり変わらないと思いますか。

1 よくなった 2 変らない 3 悪くなった 4 不明

Q. 2. これから先、お宅の暮らし向きは、よくなると思いますか、悪くなると思いますか、あまり変わらないと思いますか。

1 よくなる 2 変らない 3 悪くなる 4 不明

Q. 3. あなたは、自分の家が楽しく暮してゆけるためには、家のことを一生懸命やる方がよいと思いますか。それとも、それだけでは十分でないと思いますか。

1 家のことを一生懸命やる 2 どちらもいえない 3 それだけでは十分でない
4 わからない。

SQ. 1. それでは、どんなことをしたらよいでしょうか。(M.A.) (記入)

Q. 4. (イ) 女が政治のことをいうと嫌われるという人がいますが、あなたは世の中にそのように考えている人が多いと思いますか、それほどでもないと思いますか、それとも少ないと思いますか。

1 多い 2 それ程でもない 3 少ない 4 不明

(ロ) ところで、あなたは政治のことをいうと嫌われるという気がしますか、そうは思いませんか。

1 す る 2 し ない 3 不 明

Q. 5. ところで東京の主婦ばかりの婦人会で、牛乳や電気料金の値下げ運動をしているのを御存知ですか。

1 知っている 2 知らない

SQ. 1. その団体の名前を御存知ですか。

1 主婦連合会 2 知らない

SQ. 2. ああいう事をしても結局は、あまり効果はないと思いますか、多少効果があると思いますか、それとも非常に効果があると思いますか。

1 非常に効果 2 多少効果 3 余り効果がない 4 その他(記入)

SQ. 3. てきれば、そのような運動に、あなたは参加したいと思いますか、あるいは参加できないにしても、応援したいと思いますか、それともそれほどのお気持はありませんか。

1 参加したい 2 応援したい 3 そういう気持はない

Q. 6. 牛乳や電気料金に限らず、婦人生活にむずびつた問題では、婦人同士がまとまって運動すれば、相当な力を発揮して解決できると思いますか。それとも、今のところでは、婦人がいくら集まって運動しても、大したことはできないと思いますか。

1 相当発揮できる 2 ある程度発揮できる 3 大したことはできない 4 不明

SQ. 将来は相当発揮できると思いますか。

1 できる 2 できない 3 不明

Q. 7. あなたの住んでおられるこの辺で皆んなの困っていることなど、あなた方婦人同士で協力して解決したことがありますか。

1 解決したことがある 2 解決したことがない 3 困ったことがない

SQ. 具体的にどんなことですか。(M.A.) (記入)

Q. 8. 世間では、「婦人同士の会」とはかくうまいかいが多いという人がいますが、あなたもそう思いますか。

1 うまいかいが多いと思う 2 そうは思わない

SQ. ここにあげた原因のうち、どれが大きな原因だと思いますか。(M.A.) (別紙提示)

Q. 9. ところで選挙についてお伺いしますが、あなたは今度の選挙で投票なさいましたか。

1 し た 2 し ない 3 選挙権なし

SQ. 1. 選挙に行かれなかつたのは、いろいろの事情がございましょうが、あなたのお気持は次のどれが一番近いでしょうか。(別紙提示)

1 大して気にならない 2 何かさすまい気がする
3 権利を使えなくて残念である 4 その他(記入)

SQ. 2. 誰に入れるか一応は決めていましたか、全然決っていませんでしたか。

1 きめていた 2 きまっていなかつた

Q. 10. 選挙する時、あなたは「私たちが政府をきめるのだ」という気持と、それほど大きな気持ではなく、「選挙しないといわれるから」という気持と、どちらに近かつたでしょうか。

1 私たちが政府を決める 2 選挙しないと悪いから 3 どちらも云えない
4 その他(記入)

Q. 11. あなたは何党の票を投票しましたか。

1 民主 2 自由 3 左 社 4 右 社 5 労働 6 共産
7 無所属 8 諸 派 9 云えない 0 不明

SQ. 1. 特にその政党(無所属)が好きだつたのですか。それとも、特に好きというほどでもなかつたのですか。

1 好 き 2 それほどでもない 3 不明

SQ. 2. それほど好きというほどでもない政党に投票なさつたのは、どうしてでしょうか。

1 比較的政策がよい 2 両 方 3 人物がよいから
4 他の適当な党がない 5 その他(記入) 6 不明

SQ. 3. あなたがその政党が好きなのは、信頼できる人がいるからですか、それともその政党の政策がよいからですか。

1 政策がよい 2 両 方 3 信頼できる人物がいる 4 不明

SQ. どんな政策ですか。(M.A.)

Q. 12. あなたの選挙した人は「この人に是非出てもらわなくては」と思うほどの人でしたか、「まあよさそうな人だ」と思うほどの人でしたか。

1 理想的な人 2 まあよさそうな人だ 3 その他(記入) 0 不明

Q. 13. あなたが選挙する人をきめる時に「婦人のために働いてくれる」ような人に入れたいと考えましたか。

1 婦人のために条件とした 2 しない 3 その他(記入) 0 不明

Q. 14. [婦人候補のいた地区のものに] あなたの選挙した人は婦人でしたか。

1 婦人 2 男子 3 婦人候補者のいない地区 0 不明

Q. 15. ところで、あなたが選挙する人をきめる時、この中で参考にしたものがありますか。(M.A.)

1 新聞 2 公報 3 立会演説会 4 ラジオ(候補者の政見)
6 候補者の演説会 7 家族の人の話 8 他人の話 9 その他(記入)
0 何もない

Q. 16. 誰を選挙したらよいか決まらなくて、誰かに相談してきめましたが、人には相談せずに自分できめましたか。

1 誰の意見もきかないで自分できめた 2 人の意見もきいたが自分できめた
3 自分でははっきりわからないので人の意見できめた

SQ. 誰の意見を参考にしましたか。(M.A.)

1) 祖父 2) 祖母 3) 父 4) 母 5) 舅 6) 姑 7) 夫 8) 兄 9) 姉
10) その他の家族 11) 親戚 12) 会社の上役 13) 近所の人 14) その他(記入)

Q. 17. 今度の選挙は一昨年(4月)の時と同じ選挙区で選挙しましたか。

1 同じ区で投票した 2 その他(前回は棄権した、初めて選挙した、選挙区が変わった)

SQ. 今度選挙した人は一昨年選挙した人と同じ人でしたか。

1 同じ人 2 違う人 3 忘れた

Q. 18. 選挙する人がきまつたのは選挙の前の日位ですか、それよりずっと前でしたか。

1 前日あたり(当日) 2 それより前

SQ. 候補者が出揃った頃(2月の初め)ですか、そんなに前でもありませんでしたか。

1 候補者が出揃った頃(それ以前) 2 それより後

Q. 19. [以下全員に] 今度の選挙で政党も候補者も住宅を作るとか、税金を減らすとか、資金を貸すとか、いろいろ約束したのを御存知でしたか。

1 知っている 2 知らない

SQ. 選挙の時のこういう約束は選挙の時だけのことで、実際にやれるかどうかあてにならないと思いますか、全部できないにしても、多少はやつてくれると思いますか。

1 あてにならない 2 多少はやつてくれると思う
3 全部やつてくれる 0 不明

Q. 20. [全員に] ここに二人の代議士候補者がいて、そのうちの何れかを選ばなければならないとします。その場合“とかくよくない評判はあつても実行力のある人”と、“実行力はあるというほどでもないが、いろいろの評判は立たない人”があつたとします。その時あなたはどちらを選びますか。

1 実行力のある人 2 いろいろの評判のたぬ人 3 その他(記入)
0 不明

Q. 21. 保守的な政党とか、革新的な政党という言葉を知っていますか。

1 知っている 2 知らない

SQ. あなたの選挙した人は保守的な政党ですか、革新的な政党ですか。

1 保守 2 革新 3 選挙しない 0 不明

Q. 22. 婦人週間というのを御存知ですか。

1 知っている 2 知らない

SQ. 1. 何でお知りになりましたか。(M.A.)

1 新聞 2 ラジオ 3 雑誌、パンフレット 4 婦人会その他の会合
5 友人知人の話 6 その他(記入) 0 不明 × 無答

SQ. 2. どの役所が中心となつて行っているか御存知ですか。

1 役所名(記入) 2 知らない

SQ. 3. 毎年いつ頃行われるか御存知ですか。

1 知っている 2 知らない

Q. 23. 婦人週間には女性の地位を高めるために労働省婦人少年局や、種々の婦人団体が中心になつて、いろいろの催しがあるのですが、どんなことをやっているか知っていますか。

1 知らない 2 知っている

SQ. どんなことですか。(M.A.)

(記入)

Q. 24. 婦人週間のことで、できればこういうことをして欲しいというようなことはありませんか。……どんなことですか。(M.A.)

記入

別紙 1.

Q. 8. SQ. 1 男に比べて知識がたりない。
2 しつとしたり、感情的になる
3 家事や育児に忙しくて時間がない
4 世間がせまい、自己本位で全体として物考えない。
5 周囲の人に理解がない
6 幹部の人の指導力がない
7 その他(記入)

別 紙 2.

- Q. 9. SQ. 1.
- 1 大して気にならない
 - 2 何だか済まない気がする
 - 3 権利を使えなくて残念である

別 紙 3.

- Q. 15.
- 1 新 聞
 - 2 公 報
 - 3 立 会 演 説
 - 4 ラ ジ オ (候補者の政見)
 - 5 ラ ジ オ (政治討論会)
 - 6 候補者の演説会
 - 7 家族の人の話
 - 8 他人の話
 - 9 そ の 他 (記入)

(2). 対 象 者 構 成

	総 合	年 齢 別				自 己 の 職 業 別							
		20 代	30 代	40 代	50 代	勤め人	商工業	労働者	主婦	学生	自由業	農業	無職
実 数	439	134	116	91	98	48	22	30	281	2	5	5	46
%	100.0	30.6	26.4	20.7	22.3	10.9	5.0	6.8	64.1	0.5	1.1	1.1	10.5

	綜 合	家 庭 の 職 業 別						学 歴 別				生 活 程 度 別				
		勤め人	商工業	労働者	農業	自由業	無職	大学 高等	旧中 新制高	新中 小卒	以下	上	中上	中	中下	下
実 数	439	162	108	108	7	26	28	24	188	227	9	56	210	124	40	
%	100.0	36.9	24.6	24.6	1.6	5.9	6.4	5.5	42.8	51.7	2.1	12.8	47.8	28.2	9.1	

	総 合	婦人団体加 入の有無		家 事 担 当 の 有 無				未婚既婚別、同居姑の有無					
		入って いる	入って いない	自分に収 入があり 入が 家計担	自分に収 入がなく 入が 家計担	自分に収 入があ つて家 計担	自分に収 入がなく 家計 担でない	未婚	有夫 姑有	有夫 姑無	離死別 姑有	離死別 姑無	同居
実 数	439	41	398	103	236	50	50	71	51	245	4	68	
%	100.0	9.3	90.7	23.5	53.7	11.4	11.4	16.2	11.6	55.8	0.9	15.5	

昭和31年1月25日印刷

昭和31年1月30日発行

婦人の社会的関心に関する世論調査

東京都千代田区大手町1丁目7番地

編集兼
発行人 労働省婦人少年局

長野県長野市南条町689番地

印刷所 信濃書籍印刷株式会社

